

事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 3年 3月 22日

事業所名 たいむクラブ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		利用者数・活動内容に応じて、支援室を分けるなどしている。
	2	職員の配置数は適切である	○		利用者数・利用者の状況に応じて、配置を考えている。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		余裕を持った配置にし、動線の妨げにならないようにしている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		清掃・消毒を常に心がけている。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○		情報を共有するように声掛け、話し合いを行っている。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		保護者の意見には十分に耳を傾けるようにしている。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページにて公開している。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		外部からの評価を重視する。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		定期的に研修を行い、支援への理解を深め向上心を養っている。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		保護者のニーズをしっかりと受け止め作成する。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		課題の目安としている。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		支援計画書には、子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、設定されています。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		計画内容を確認しながら、支援に繋げている。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		利用者それぞれの課題を考慮しながら、プログラムを考えている。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		様々な分野を取り入れている。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		子どもの状況を考慮し、集団活動の中での個別支援を計画に盛り込んでいます。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		内容・やくわりを確認し、準備をしている。タイムスケジュールを活用しています。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		利用者個々の状況を確認し合い、情報共有を行うと共に、次の支援に繋げていく。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		業務日報、e日誌に記載している。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		個々の状況に応じた計画を常に見直しながら行う。(年2回)
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		必要に応じ、参画している。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		連携を取り、支援に繋がられるようにしている。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		病院や児童発達支援事業所等、必要に応じて連携をとる。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		保護者より病院受診・服薬の連絡をもらい、情報共有するようにしている。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		情報の共有に務めている。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		積極的に情報の共有を行い、適応した支援ができるようにする。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		積極的に研修に参加しています。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		○	機会を持ち、理解を得られるように考えている。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		○	今後検討していきます。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎時やコドモンを活用して、その日の出来事や今後の課題等を情報の共有している。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		保護者とのコミュニケーションを常に心掛け、状況に応じ支援を行う。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に説明している。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		計画書を渡すときに説明して、サインを頂いている。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	<input type="radio"/>		面談や家庭訪問を行い、現在の様子や悩みを伺い、必要なアドバイスを行っている。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		<input type="radio"/>	今後検討していきます。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	<input type="radio"/>		子ども・保護者の声に耳を傾け、迅速に対応できるようにしている。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	<input type="radio"/>		利用予定表にてお知らせしている。またホームページやSNSで発信しています。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	<input type="radio"/>		十分な配慮をしている（鍵付きロッカーで管理）
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	<input type="radio"/>		適時・適応した対応ができるよう心掛けている。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	<input type="radio"/>		地域の住民の方、保護者を招待するバザーを開催しています。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	<input type="radio"/>		研修を通し、緊急時にも対応できるようにしている。定期的な研修を実施しています。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	<input type="radio"/>		非常時対策として、定期的な訓練・確認を行っている。（年4回）
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	<input type="radio"/>		保護者より情報を確認し、状況を把握している。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	<input type="radio"/>		保護者との情報共有をもとに対応を行っている。（昼食・おやつはアレルギー対応を実施）
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	<input type="radio"/>		情報共有により危険回避に繋げている。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	<input type="radio"/>		研修を通し理解や防止につながる対応を心掛けている。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	<input type="radio"/>		利用者の安全を考慮した上で判断し、保護者の方への説明・同意を頂き、個別支援計画書に記載しています。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は事業所全体で行った自己評価です。